

## 2013 年度夏季海外研修（中国語・中国文化コース）研修レポート

ソフトウェア情報学部 I さん

私たちは5人で北京伝媒大学に15日間滞在してきました。平日の午前中は中国語の授業を受け、それ以外の時間はほとんど自由時間でした。ほとんどというのは、中国の文化や歴史に触れるために、最初にプログラムに組まれている授業もあったからです。この授業は、書道や音楽、中国結び、万里の長城など体で体験させていただきました。書道は先生に一回も褒められなかった.. (笑)けれども、集中して文字を書くことは日常であまりないので爽快でした。私は音痴がコンプレックスなので音楽の時間は始まるまでちょっと憂鬱でしたが、始まってからは、みんな歌って楽しかったです。最炫民族風という曲はすごく盛り上がりました。留下来！一度聞いてみてください(笑)万里の長城は観光用の短い距離を登ったので、思っていたよりも疲労感は少なかったです。平日の中国語の授業は5人という少人数だったので、一人一人の発音を丁寧に直して下さったり、聞き取りの練習もチーム制にして、勝ったチームにチョコレートを配って下さいました。とても楽しんで授業を受けることができました。日常でも実際に使えるような中国語や、単語を優先的に教えて下さいました。私たちは、すぐにアウトプットすることのできるいい環境で学習することができ、確実に研修前よりも力がついたと思います。研修先の寮は、シャワー室がしょっちゅう壊れてたけど、洗濯機も備えてあって、トイレもきれいでしたし、自炊するための調理場も整っていて生活しやすかったです。留学生寮に宿泊したので、他の外国から来た留学生とも交流する機会がありました。中国語の勉強のために留学してきているので共通語は英語でしたが、自分の英語力の低さを痛感しました。聞き取れないし、単語の意味がでてこない.. せっかく交流する機会なのに言葉が出てこなくて悔しい思いをしました。何年間も勉強していてこれではだめだなと思います。英語は是対にこれからも使うので中国語とあわせて勉強したいです。中国研修はすごく楽しかったし、いい経験になりました。またできたら中国留学したいです。



←研修の北京で最後に撮った写真です。

北京伝媒大学の日本人在学生が空港まで見送りに来て下さいました。この中国研修中、最も私たちを気にかけて下さりいろんな観光地と一緒に回ったりしました。ちょっと変な関西弁を使うのがまたなじみやすく、研修がうまく進んだのは彼のおかげだと思います。北京伝媒大学の日本語の

森（日本人や日本語学科の生徒の集まり）の会長です。本当にいい人に出会えました。



←研修中、中国語を教えてくださいました先生です。

中国語と英語で私たちに拼音（初歩の初歩）から聞き取り、単語、日常生活で使える簡単な会話まで教えていただきました。  
私たちは平日の午後と週末が自由時間だったのですが、実際に私たち研修生だけでレストランやスーパーに行って注文したり、洋服や靴なども自分たちで値切ってみたりしました。なんとか生活できたのは先生のおかげです。



←お世話になった先生です。この写真は万里の長城で撮ったものです。

英語を教えてる先生だそう。初日に空港まで迎えに来てくださった先生です。困ったことがあればすぐに言ってくださいと言ってくださいました。授業にもよく顔を出しては私たちのことを気にかけてくださいました。



←県大の先生と伝媒大学の先生方との集合写真です。

最初に自己紹介する時間があったのですが、自分の名前すら発音が良くなって伝わらなかった.. 笑  
後ろに見えているレストランで何回も食事しました。  
(学内で一番おいしかったです。)



レストランの中→



←伝媒大学の日本語学科の皆さん。

2,3回昼食を一緒に食べました。日本語はほとんど完成している状態の人もいて、外国語の完成度の高さにおどろきました。発音練習にも付き合ってくれて、日本語ではあまり使わない音の出し方を教えてくださいました。発音練習はこれからも続けていきたいです。



←アナウンサー学科の方たちと、私たち。

一緒にお食事をしました。アナウンサー学科の方たちはさすが！というくらい良い声をしていました。ボイスレコーダーで録音済みです(笑)わたしたちについて一人ずつコメントをいただきました。



←日本人の留学生の方々に最後には見送っていただきました。

寮内でよく中国語の勉強を教えてくれたり、発音チェックをしてくれたり、買い物で値引き交渉の仕方を教えてくれたり、もう何から何まで教えていただきました。

出発の日。朝の5時から私たちを待っていていました。授業も始まっているのに本当に感謝です。

谢谢！ 北京传媒大学

夏季海外研修・中国文化コースに参加して、これまでメディアの報道や偏見の上でしかイメージしえなかった中国を身近に感じることができ、さらに新たな知見を得ることができました。私にとってとても濃く、貴重な二週間となりました。

まず、「死ぬまでに人生でいつかは行ってみたい」と思っていた中国の観光地に行くことができたことが大きな達成感でした。中国の観光地といえば、なんといってもやはり万里の長城。私たちが長城に行った日は見事なまでの快晴で、頂上からの眺めは絶景。感動的でした。その他には天安門や、故宮・紫禁城、オリンピック公園、北京動物園にも行きました。天安門は一部工事中で全貌を見ることは出来ませんでした。テレビなどでよく目にする毛沢東の肖像画は見ることができました。また、天安門広場前の片側六車線の道路を、車が途切れることなく行き交っている光景が印象的でした。故宮・紫禁城は事前に中国史を勉強して行けばよかったと少し後悔しました。敷地面積があまりに広大で、ここに住んでいた人は忘れ物したら大変だっただろうな、と思いました。個人的にとっても楽しみにしていたのがオリンピック公園、いわゆる「鳥の巣」です。北京でオリンピックが開かれたのは2008年と今から5年も前ですが、いまだに多くの観光客で賑わっていました。実際に見た鳥の巣は5年前にテレビで見たよりも小さく感じました。しかしその形と構造がとても謎めいていて、しばらく見つめていても飽きることはありませんでした。そして北京動物園では、本場の熊猫（パンダ）を拝むことができました。北京動物園は日本の動物園より動物のバラエティが豊富で、しかも面積がとにかく広大。オリンピック公園にしても動物園にしても、敷地面積がいちいち広大なのはさすが中国だなと感じました。

なんといっても忘れられない思い出は、研修中に誕生日を迎えたことです。とても苦労して誕生日ケーキを買ってきてくださり、みなさんに前門の老舗焼売屋さんで祝っていただきました。中国のケーキは日本のものに比べて色鮮やかで、クリームでつくられた花も美しかったです。焼売さんにケーキを切るナイフがなかったので箸でケーキをカットして、さらにフォークもなかったのでみんなで箸でケーキを食べました。今思い返すととてもシュールな画だったなと思います。あの時の冠は大切にとってあります。間違いなく今までの人生で一番嬉しい誕生日になりました。一生忘れることはないでしょう。

面白すぎたエピソードは列挙したらきりがなくらい、二週間のうちで数えきれなくらいありました。しかしその中でも強烈に印象に残っているのが、入学式の時私の隣に座っていた外国人学生が、式中にもかかわらずカバンからおもむろにラ・フランスを取り出していきなり丸かじりしはじめたことです。なんというか驚きでした。ワイルドという言葉では片づけられない何かを感じました。

私が中国研修で得た最大の収穫は、人との出会いです。人との出会いが自分を変えてくれたという常套句のようですが、心の底からそう実感しています。中国に行って現地の学生と交流したことで中国語を話す楽しさを知ることができたと同時に、この人たちともしっかりと流暢に会話ができるようになりたいという欲が生まれ、これからも永く中国語の勉強を続けていこうと決意しました。あとは、岩手で産まれて岩手県内の大学に通うまさに井の中の蛙であるわたしが、伝媒大学に留学している日本人学生と接触したことによ

って大海を知りました。同年代なのに皆自立して大人びていて、自分はなんて小さい世界で他人に甘えていたのだらうと気付きました。まだまだ私の知らない世界があるのだと思うと、どこからか頑張る希望が湧いてきます。最終日はみなさんとの別れがつらく、空港では涙が止まりませんでした。

中国に行ってくるよと言うと、正直周囲からの反応は鈍いものでした。中国かあ。大丈夫？気を付けてね、といった具合に。私も行く前は少し不安になりましたが、行ってみたら思い描いていた中国・北京とはいい意味で裏切られました。もちろんカルチャーショックはあったし、日本との文化や習慣の違いに驚かされることは多々ありましたが、二週間もいれば案外環境に適応できるものなのだなと実感しました。私は最初、容赦なく鳴らされるクラクションや自転車のアグレッシブさに驚きを隠せませんでした。後半にもなると身体がすぐ横を車が通っても特に動じなくなりました。中国の良い点も悪い点も、想像通りだったことも想像と違っていたことも、実際に行ってみなかつたら知ることにはなかつたでしょう。テレビや新聞の情報だけで中国をイメージしていた私にとって、今回の中国研修は中国のイメージのみならず人生観までも変えた、はかり知れないほどに貴重な体験となりました。

今回の海外研修は不安でいっぱいであった。ただでさえ異国の習慣や文化の中での生活であったのに中国伝媒大学での研修が今回初めてであったため、情報量が少なく未知なる領域への探検をしているみたいであった。また言語の違うため言葉が通じず、コミュニケーションがとれないため2週間の生活が予想できなかった。そして、4日目からの自分たちだけでの生活が何よりも不安を掻き立てた。

そんな気持ちで今回の海外研修に臨んでいたが実際は思った以上に充実した海外研修になった。中国語のスキルはもちろんこと中国の文化や習慣に触れることができたし、また現地の学生との交流できたことも充実することができた要因である。

中国語は出国する前の能力が低かったため、一からのスタートのようなものだった。発音が難しいと言われるだけあって、声調と読み方難しく、自分がそのつもりで発音しても全然伝わらないのが悔しかった。実際、中国に行く前は声調なそんな重要視していなかったし、正確に発音しなくてもニュアンスで通じると思っていたが、そんなに甘くなかった。先生や日本人の留学生など沢山の人の発音のアドバイスをしてもらった場面が多々見受けられた。そのおかげか終盤では、自分たちで買い物や食事できるようにまでなったのは大きな成長だった。今では、中国語の授業で不適切な発音していると気になってしまうくらいになった。

中国の文化や習慣も異なりいつもでは体験できないような事が2週間と短い時間の中で味わえたのは研修に参加してよかったと思う点である。中国結はお土産で見るとようなものを自分たちの手でつくるでき、現地の留学生でもなかなかしないような体験することができた。中国と言えば書道である。書道を通して中国で有名な孔子の考え方を学んだ。その他にも中国で有名な曲など授業での文化体験は内容が濃かった。授業で体験した意外にも中国の文化や習慣を体験することができた。研修期間が良い時期に当たり、仲秋月だったために中国の伝統を知ることができたし、気候にも恵まれていた。

現地の学生や日本人の留学生と交流できたことがこの研修で一番収穫が大きかった。様々な人たちと交流することで考え方が変わった。今まで自分にとって普遍的なことが他人にとっては普遍的ではないこともあるということを知った。また固定概念にとらわれていては新たなものに挑戦できないと実感した。考え方の他にも、現地の学生や日本人の留学生にいろいろとお世話になった。2週間無事に生活できたのもこの人たちのおかげである。また、2週間を有意義に過ごすことができたのもこの人たちのおかげである。海外研修を思い出は現地の学生や日本人の留学生との思い出でもある。それゆえに、空港での別れでは、ほとんどが涙していた。その記憶は今でも鮮明に覚えている。またその涙が今回の海外研修がいかに充実していたものかが分かるものであった。

9月8日から22日の二週間、夏季海外研修で北京に滞在した。もともと国際協力や国際交流などに興味があった私は、大学主催のプログラムで海外体験ができる良い機会だと思い参加することを決意した。とはいえ初めての海外であり、中国についても治安などマイナスイメージな情報が多かったため不安ばかりだったが、たくさんの人と出会い現地の文化に触れたこの二週間は充実の一言に尽きるものだった。

しかし最初に北京に到着したばかりのときはカルチャーショックの連続だった。まず空気が濁っていること、道路がとて大きく運転が大胆であること、クラクションをやたら鳴らすことに驚いた。また日本人留学生に連れてきてもらった最初の食事店でも、飲み物の持ち込みが当たり前だったり、食器を自分たちで水で洗ったり、店員が日本と比べて大雑把だったり、かなり衝撃的だった。また北京の地下鉄は、数分おきに列車が来て東京と同じように感じたが、車内で通話する人が多く（しかも大声）またまた驚いた。初めて地下鉄に乗って行った天安門広場ではちょうど国旗を下げる時間帯でそれを多くの人が見守っており、中国の国民性を感じた。

そんな驚きの連続で始まった研修だったが、日本人留学生が常にサポートしてくださり、有意義な経験をたくさんすることができた。特に、先生たちが日本へ帰国してしまった後は自分たちで行動することになるため、はじめはなんだかとても不安だったが、授業後に隆さんが出迎えてくれてすごくうれしかったのを覚えている。隆さんは日本語を勉強している現地学生との交流もたくさん設けてくれ、多くの学生とふれあうことができた。また、中国語の授業では日常生活で実用できる表現を多く取り扱ってくれたため、自分たちだけでご飯を注文する際や買い物で値段交渉をする際に、授業で習ったことを実践することができた。

この研修に参加するまでは、まさかこの二週間で食べ物の注文や値段交渉ができるようになるとはとても思ってもみなかったし、前期に履修していたフランス語から中国語に乗り換えることになるとも思っていなかった。この二週間は終始楽しく、学びの連続であり、みなさんとお別れするのは本当に寂しかった。帰国してしばらくは中国シックになってしまったほどである。こんなにも充実した生活を送ることができたのは、伝媒大学の先生や学生の親切すぎるほど親切だったサポートのおかげだ。感謝してもしきれない。北京で仲良くさせてもらった日本人学生や中国人学生とは今も連絡を取り合っており、これからもずっとこの縁を大切にしていきたいと思っている。そしてこの熱を冷まさぬよう中国語の勉強にも励み、経験してきたことを今後の大学生活に最大限に活かしていきたい。



中国から帰国して、いわゆる中国シックになった。中国にまた絶対行きたいと感じた。一ヶ月経過したいまでも変わらず思う、「また中国に行きたい」と。それは、もちろん中国という国が好きになったこともあるが、研修を通して出会った人に会いたいという気持ちからであると私は考える。勉強して得たことはたくさんあるが、やはり人とのつながりは大きな宝だ。場所ではない、人なのである。海外に対して少なからず偏見や固定観念はなかなか拭えないと思うが、実際に海外に行くと凝り固まった考えは一切なくなると思う。場所がどこであれ、現地の人と話し、共感し合い、思い出を作ることで仲間になる。そのような繋がりを海外に持てたことはすばらしいことである。世界の捉え方が大きなものから小さなものへと変わった気がする。

今回の研修は語学の勉強はもちろん、習得した語学を実践する機会や文化を学ぶ機会などもあり、短期間にもかかわらず充実したものであった。中国語の授業は少人数で受けさせていただいたので、かなり中国語の上達が早かった。実践の機会というのは、学校付近の通りや北京市内に出かけることである。外食、天安門、故宮、前門、万里の長城、動物園、大型ショッピングモール、オリンピック公園、等々ほぼ毎日出歩いていた。日本人留学生の方や中国人の方が付き添いで着いてきてくださったことも多く、不自由なく存分に楽しめた。実際に自分たちだけで中国語で買い物や外食ができたときはとても嬉しかった。学んだことはすぐに使うことが修得の鍵である。

教訓になったのは、盗難に遭ったことである。最終日に地下鉄で財布を掏られた。自分の不注意でもあると深く反省。その際に、日本人留学生の方が迅速に対応してくださって本当に助かった。感謝しきれない。海外に行く際には、常にもしものことを考えて行動することを心がけたい。

一番印象に残っていることは、現地の学生の意識の高さである。話をしていると分かるが、尋常でないくらい勉強をしている。その真摯な姿に感銘を受けた。また、中国のような大きな国では自分から主張していかなければならないと感じた。アナウンス学部に研修前から興味を持っていたが、概要を知るとさらに関心が増した。日本語の五十音より遥かに多い音数を学んでいるのには驚いた。私も現状に満足することなく、次のステップを目指しながら日々を送りたい。またこのような機会があれば是非行きたいし、それ以外にも自分でもっと中国のことを知り個人的にもまた訪れたい場所であった。出会った全ての人に、谢谢！认识你很高兴。

